



高林邸主屋

Date/

2025年11月30日(日)

13時30分～16時30分 開場 13:00 | 入場無料 | 申込不要

静岡文化芸術大学 / 南 176 大講義室

About/

このシンポジウムでは、日本近代における「民藝」と「田舎家」に注目し双方の文化・思想活動が建築においてどのように現れたのかを考えます。

静岡県浜松市の旧家・高林邸は屋敷構えが一体で残り、14の建造物が国登録有形文化財となっていますが、その主要部分は近代に形成されました。主屋は1929(昭和4)年につくられ、「民藝」の意匠で実現した最初の常住の住宅です。また邸内の「田舎家」は、代々居住していた庄屋屋敷の古材を用いて1931(昭和6)年につくられ、「日本民藝美術館」として最初の常設民藝館となりました。これらの建築物を構想・設計した、高林家の14代当主・高林兵衛は、昭和初期に柳宗悦をはじめとした民藝同人の支援者となりましたが、一方で13代維兵衛以来の事業家としての功績も大きく、近代数寄者として「田舎家」趣味を広めた実業家、益田孝(鈍翁)らとの交流もありました。高林邸内の建築物は「民藝」と「田舎家」の結びつきを示すもので、全国的にも唯一の事例と考えることができます。このシンポジウムでは、4年間にわたって実施している高林邸の建築・庭園調査を中心に、「民藝」と建築、近代住宅史における民家、高林家と地域の産業・近代化などについて考えます。

Symposium/

民藝と田舎家

高林邸建築調査を通して